

未来に生きて働く探究力と省察性の育成

外国語活動の本質

我が国でも外国人観光客や外国人労働者の増加により、諸外国の人々の文化や言語に触れる機会が増えている。このようなグローバル化が急速に進んでいる社会において外国語をコミュニケーションの手段として使い、国際的な視野に立って活躍できる資質・能力が求められている。そのような資質・能力を育成するためには「話す・聞く」を中心としたコミュニケーションの素地を養い、互いの言語や文化を尊重する思いを育むことで未来や社会へのつながりを持つことができるようにしていくことが重要である。

外国語活動の目標及び育みたい探究力と省察性

| | |
|----------|--|
| 外国語活動の目標 | 外国語やその背景にある文化について親しみ、体験的に理解を深めることでコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。 |
| 育みたい探究力 | 日本と外国について言語や文化の違いに気付き、対象・他者との関りを通してコミュニケーションを図ろうとする資質・能力。 |
| 育みたい省察性 | 自らの生活や社会に対して課題を見出し、解決策を考える中で習得した知識をさらに高めていこうとする資質・能力。 |

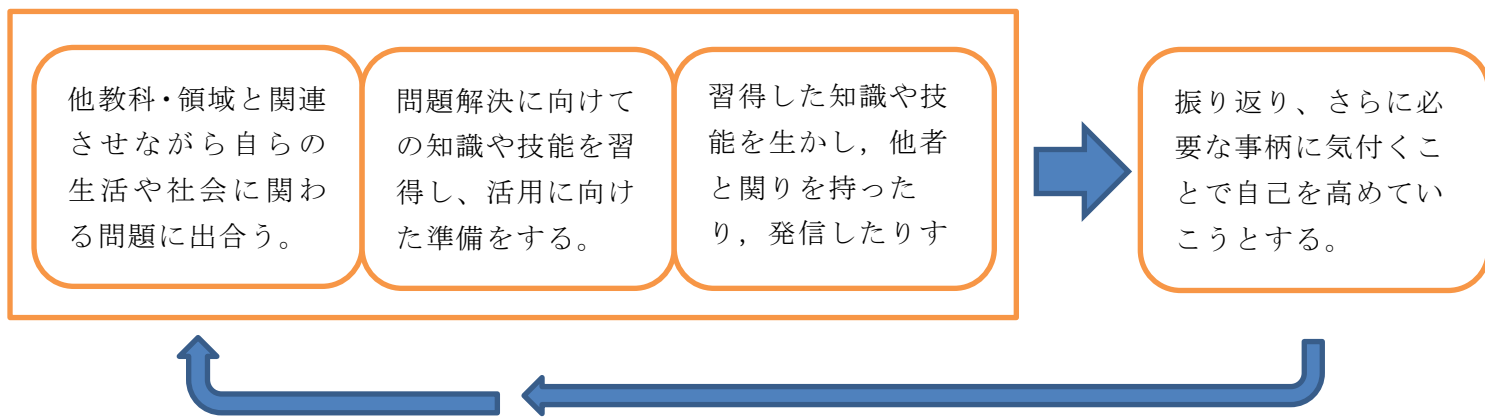
外国語活動における探究的な学びのイメージ

【問題】

【親しむ・習得】

【活用】

【考察】



探究力と省察性を育む指導

外国語活動における「探究力」とは、いかに他者とコミュニケーションを図り、新しい出会いや自国との文化の違いを楽しみ世界を広げることである。そのために今の自分に必要な情報や技能について考え、語彙や表現を習得していく省察性が必要になる。その「探究力」と「省察性」を高め、継続していくには自分が新しく習得した言語によるコミュニケーションによって新しい自分や世界が広がったことに対する喜びが感じられる指導が重要になる。

研究の評価

主として子どもたちの成果物や児童観察、アンケート調査を行い、研究の成果と課題を明らかにする。子どもたちの成果物をファイリングし、ICT機器を用いて活動や表現を記録したものをポートフォリオとして活用し、学習前と学習後の語彙の量や表現の変化をもって評価を行う。